



支部・分会役員が一丸となつてのガンバロー (渋谷)

# 西部ブロック

目黒、渋谷、世田谷、新宿、中野、杉並

## 3千人超を目指す

### 渋谷 5カ年計画の仕上げ

【渋谷・タイル工・加藤和春記】4月15日、けんせつプラザ東京にて、支部60周年にあたる第61回定期大会を開催しました。分会再編1年を経て迎えた大会となり、23件の意見・要望がありました。

渋谷は事業所の従業員である組合員が大半を占め、適用除外による加入が70%を超えています。彼らの団結なくして、今後の渋谷支部の組合運動はありせん。「建設業の働くルール確立」を目指すために、労働者・事業主の結束をはかり、労使の団結のために、対話・要求の聞き取りを進めます。

また、3000人支部を目指す5カ年計画最終年度として仲間の繋がりを拡大を中心に、3010人支部達成を目指すことも確認されました。組織を充実したものにすると、支部・分会役員一丸となり分会・群活動を推進します。新4役は次の通り、委員長・伊藤勝伸。副委員長・小倉常良、佐藤知子、白須美登里、小島真一。書記長・加藤和春。書記次長・阿部裕輔。

## 群活性化さらに

### 杉並 年度末までに8分会

【杉並・書記・喜多正之通信員】杉並支部は4月8日、支部会館で第69回定期大会を184人の参加で開催。当日は秋津消防署をはじめ、東京土建本部や東京都連傘下の建設労組、都議会3会派から来賓挨拶を受けました。

2018年度末に現在13の分会を8分会に再編する提案がなされました。討論では①群会議に参加できない仲間を振り込みと資料郵送、②「群の飲み会」でようやく顔見知りになった。群の活性化をもつと」といった意見のほか、③分会再編延期を求める意見等がありました。再編は前大会での決定事項であり、新年度中に行なうと決しました。

大会を通じ、群会議は未開催、支部機関紙も読まれていない実態が判明。これらの活用が有効と考えます。

新4役は次の通り。委員長・大戸龍雄。副委員長・松原



伊藤賢司新宿支部委員長の挨拶

【新宿・書記・角谷美樹記】「建設業と日本社会に広く連帯をつくり、仕事と暮らし、憲法と民主主義、平和を守ろう！」だれもが主人公の「全世代型」運動で、建設業と東京土建新宿支部・全分会の未来をひらこう！」をスローガンに掲

## 「全世代型」運動で

### 新宿 定年制を部分緩和

【新宿・書記・堀田祐子通信員】4月8日スクエア荏原で第61回定期大会を開催し、来賓12人、代議員・評議員など130人が参加。活動のまとめ・新年度方針・

決算予算を討議、新役員の出を行ないました。佐藤忍委員長より、「昨年は8年ぶりの組織増勢と目黒区公契約条例制定を仲間の力で勝ち取れた。『建設業は平和でこそ成り立つ』を明確に地域共闘の運動を強めよう」と挨拶がありました。千葉書記長は活動方針で、安倍暴走政治、改憲発議を阻止し、組合員の命と暮らしを守る取り組みを強めるために強く大きい組織の建設を提起されました。

活動経験報告では柿の木八雲の鈴木分会長から、役員が日頃から組合員に何か困ったことはないかと小まめに連絡し拡大に協力を得ているという報告や、アスベスト原告団の山田さんからアスベストのせいで早く亡くなった主人のために訴訟勝利へさらなる支援を訴えがありました。

新4役は次の通り。委員長・佐藤忍。副委員長・岩城道昭、佐藤豊、葦澤良行、本宮顕自。書記長・千葉一郎。書記次長・日下解人、山本雅人。

## 強く大きな組織作り

### 目黒 増勢と公契約を確信に

【目黒・書記・堀田祐子通信員】4月8日スクエア荏原で第61回定期大会を開催し、来賓12人、代議員・評議員など130人が参加。活動のまとめ・新年度方針・

決算予算を討議、新役員の出を行ないました。佐藤忍委員長より、「昨年は8年ぶりの組織増勢と目黒区公契約条例制定を仲間の力で勝ち取れた。『建設業は平和でこそ成り立つ』を明確に地域共闘の運動を強めよう」と挨拶がありました。千葉書記長は活動方針で、安倍暴走政治、改憲発議を阻止し、組合員の命と暮らしを守る取り組みを強めるために強く大きい組織の建設を提起されました。

活動経験報告では柿の木八雲の鈴木分会長から、役員が日頃から組合員に何か困ったことはないかと小まめに連絡し拡大に協力を得ているという報告や、アスベスト原告団の山田さんからアスベストのせいで早く亡くなった主人のために訴訟勝利へさらなる支援を訴えがありました。

新4役は次の通り。委員長・佐藤忍。副委員長・岩城道昭、佐藤豊、葦澤良行、本宮顕自。書記長・千葉一郎。書記次長・日下解人、山本雅人。

## 対話で信頼構築を

### 中野 住宅デーでも意見

【中野支部・書記・高橋恵喜通信員】4月8日、けんせつプラザ東京で第64回支部定期大会を開催。参加者は来賓を含め174人でした。今大会は要求実現の基礎となる組織の拡大強化、そして運動の意義について議論されました。

全体会ではこの間増えている事業所組合員をどう組織していくのかという疑問が出され、執行部より「事業所との信頼関係を築くために、何よりも対話が大事。事業所訪問で事業主はもちろん、従業員の

## 希望持てる産業に

### 世田谷 地域での運動推進で

【世田谷・書記・近藤日登美通信員】4月8日、日本大学商学部(砦)で第60回支部定期大会を開催し、代議員・特別代議員167人を含め、合計202人が参加しました。

基調報告では、組織の確立の様々な運動の推進で建設産業振興を図り、建設労働者の社会的地位向上と希望の持てる建設産業を

質疑討論では今回提案された分会再編について意見が出され、当該分会と十分に話し合い、合意が出来た段階で段階的に実施していきたいとの回答がありました。

午後には5つの合同分科会で議案を討議し、本会議では総括・方針・決算・予算を満場一致で採択しました。

新4役は次のとおり。委員長・佐久間法博。副委員長・秋元正真、服部達朗、間世田均、岩佐俊光。書記長・佐藤正。書記次長・勝呂高也、山崎修、田村彰宏。



杉並では多くの質問が



分科会の発言者 (世田谷)

希望の持てる建設産業を